

## 米国 使用済み再生プラスチックから作った初のリンゴ包装容器

The Packer 2023年10月9日

ワシントン州ヤキマ郡を拠点とする栽培・出荷業者のスーパーフレッシュグローブズ社は、使用済み再生(PCR)プラスチックから作ったリンゴと洋ナシの小売り用フルーツバッグを導入した。

使用済み再生プラスチックは、ペットボトル、大型の牛乳ボトル、その他のプラスチックバッグなど、人々が毎日リサイクルするものから作られている。ニュースリリースによると、同社の新しいPCRパッケージは、米国内の複数のリサイクルセンターから供給され、継続的にリサイクルでき、SGSグローバルサービス認証を取得し、FDA(米国食品医薬品局)の食品接触材規則に適合している。

リリースは、この取り組みは、環境負荷を減らし、資源を節約するための同社による数多くの取り組みの1つであるとし、また、これらのバッグの調達コストは、100%新品の素材から製造したプラスチックで作られたバッグと同等であるとしている。

同社の持続可能性と包装の責任者であるタイラー・ワインベンダー氏はリリースで、「このPCRバッグは、弊社が数年前に考え出したアイデアであった。再生プラスチック樹脂を利用してそれに新しい命を吹き込むことができる解決方法を求めている。より多くの製品がPCRを利用すれば、それはリサイクルの流れのための市場を生み出し、需要を促進し、リサイクル率を高めるのに役立つ」と述べている。

リリースは、このプロジェクトは、同社のリサイクルに向けた最後の隙間の1つを埋めたとしている。

同氏は、「困難はあったが、地元の印刷業者が弊社のコンセプトに同意し、その実現を助けてくれた」と言い、「弊社はすでに箱やパルプトレイに段ボールを再生したものを使用し、サクランボとベリー類のグラムシェルフパッケージにPETを使用しているため、PCRバッグは弊社の持続可能な包装の目標にうまく合っている」と語った。

ワインベンダー氏は、持続可能な包装の選択肢は広範であり、場合によっては誤解が生じる可能性がある」と述べ、企業は持続可能性の目標を推進するテクノロジーに確実に投資するよう用心深く警戒する必要があると付け加えた。

「最近、リンゴ用の新しい紙製パッケージのオプションをいくつか目にしたが、最終的には、単層のフィルム製バッグよりも多くのエネルギーと水を必要とし、二酸化炭素排出量が多いことがわかった。さらに、地元の印刷業者と提携することで、輸送に関連する排出量を最小限に抑えることができる。弊社のバッグの約3分の2はここワシントン州中部で作られており、このことを本当に誇りに思っている」と同氏は述べた。

同社のPCRバッグは、店頭のリサイクルボックスなど、既存のビニール袋やプラスチックフィルムのリサイクルの流れを通じて再利用できる。リリースによると、包装資材の品揃えにPCRバッグが追加されることで、同社はパッケージの持続可能性と二酸化炭素排出量の削減が継続的に進むことを期待している。